


生薬解説 262 たー7

音順	生薬名	中医の性味・帰経	中医の用量
中医学生薬解説、参考・使用上の注意		および中医学以外の生薬解説・生薬学解説	
たー7	だいせいよう 大青葉	鹹・苦・大寒 心・肝・胃	6～15g、鮮品は24～30g、煎服。 外用は適量。
中医生薬解説			
 <p>アブラナ科のタイセイ・キツネ ノゴマ科のリュウキュウアイ・ タデ科のアイなどの葉</p>		<p><b>清熱解毒</b> 熱毒による発熱、頭痛、咽喉の腫脹疼痛、口内炎、膿腫、丹毒などに、単味であるいは石膏・黄芩・玄参・金銀花・山梔子などと用いる。</p>	<p><b>涼血化斑</b> 邪入営血の高熱、意識障害、皮下出血、吐血、鼻出血などの症候に、犀角・山梔子・牡丹皮などと用いる「犀角大青湯」。</p>
		<p>参考 近年、流行性耳下腺炎、日本脳炎、ウイルス性肺炎、流行性肝炎などのウイルス性疾患や、流行性脳脊髄膜炎、扁桃腺炎などの細菌性疾患によく用いられて有効であり、流行性肝炎の肝腫大にも用いられている。</p>	<p>使用上の注意 使用上の注意 実熱火毒にのみ用いる。</p>